2023 年度総括及び 2024 年度各学部 FD 活動

学部等名	FD 活動
法学部	[2023 年度 FD 活動] ・2023 年 11 月 16 日の教授会において、各科目の成績分布を確認し、成績が下方あるいは上方に偏っている状況を中心に、成績の在り方について意見交換を行った。 ・2024 年 1 月 18 日の教授会において、学務委員会から提出された資料「2022 年度成績評価分布状況に関する各単位からの検討結果の集約」(2023 年 12 月 7 日）をもとに、各学部の分析と比較しながら、成績評価の在り方について検討し、今後も継続して検討をしていくことを確認した。 ・外部 FD 研修への参加 2024 年 2 月 17 日に、1 名の法学部構成員が外部 FD 研修に参加した。 [2024 年度 FD 活動] ・教授会あるいは教授会終了後に開催する「教学に関する懇話会」において、教学に関する問題を取り上げ、検討していく予定である。
学部等名	**FD 活動**
経営学部	[2023 年度 FD 活動総括] ・新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会（4 月 3 日開催）は、学生スタッフ（学生 FD 委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。 ・第 1 回教授会（4 月 6 日開催）において、2022 年度学修成果アンケートの集計結果をもとに、両学科の現況を確認し、教学改善に向けての意見交換を行った。 ・2020 年度に教授会において確認された「学生の学び」において「入門ゼミ」が重要となるとの認識に基づいて 2020 年度と 2021 年度に実行した「入門ゼミ」への学部予算増額をさらに発展させて 2022 年度においては経営学部 1 年次生のみを参加対象とする文化的イベントを開催した。2023 年度においては予算上の措置を議論した上で「入門ゼミ」単位で参加するクイズ大会とドッジボール大会を開催した。 [2024 年度 FD 活動] (1)新入生歓迎会の実施 ・経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導 ・学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生 FD 委員の参加により実施 (2)よりよい教育の実現を目指した議論 ・学修成果アンケート集計結果をもとに、現況を確認、教育上の課題を検討 ・「学生の学び」において重要となる事項の検討、予算上の措置の再考
学部等名	**FD 活動**
経済学部	[2023 年度 FD 活動総括] ・経済学部内 FD 学習会・外部 FD 研修。 2023 年度は 2024 年 2 月 13 日に FD 学習会を開催した。「経済文献購読のあり方」をテーマに開催され参加者は 25 名であった。25 カリに向けて、情報共有と意見交換がなされることで知見を深めることができた。また、外部の研修会等へ積極的な参加を促し、61 件の参加報告がなされた。 [2024 年度 FD 活動] 経済学部内 FD 学習会を開催する。テーマはカリキュラム改変に伴い自由に議論・意見交換することが望ましいと思われるテーマ（経済文献購読のあり方、導入教育のあり方、など）から選択する。

学部等名	FD 活動
現代中国学部	[2023 年度総括] ・卒業生及び新入生アンケート 2023 年度の学修成果アンケートの回答率は、卒業合格者（第一次）において 73.7%（全学部平均 47.2%）と際立って高く、また、学部独自の卒業生アンケート（語学系資格取得状況）も実施し、これを補完することができた。加えて、学部独自の新入生アンケートを実施し、新入生の全体的傾向の早期把握に努めた。 ・教学活動に関するワーキンググループ 「初年次教育グループ」「語学教育グループ」「新しい教育方法グループ」「キャリア教育グループ」の 4 つの FD グループに分かれて、教学活動に関する意見交換の場を持った。各グループの活動報告書は Teams で共有されており、随時他グループの活動内容が把握できるようにしている。 ・オンラインを活用した教育実践について COIL 型（国際協働オンライン学習プログラム）授業を導入しており、これについて意見交換の場も FD 活動の一環として設けられた。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、カリキュラムの見なおしを行った。 ・入学前教育の見なおし 入学前教育課題について、そのあり方と内容について見なおしを行った。また学生の読書習慣を促すことを目指し、課題図書についても教員間で検討を重ね、新たに図書を選定しなおした。 ・現代中国学会との連携 現代中国学会主催講演会を開催した。 日時：2023 年 10 月 28 日(土) 演題：「分断のなかの現代中国研究」 講師：山田　辰雄　氏（慶應義塾大学名誉教授） 現代中国研究に関する講演内容を共有し、授業にも活用できるようにした。 ・現地プログラムおよび現地調査、現地インターンの再開と取り組みについて情報共有 2023 年度から現代中国学部の「現地プログラム」「現地研究調査」「現地インターンシップ」が再開した。これに関連し、コロナ禍以降の変化や現状について情報を共有し、今後の現地プログラムのあり方について意見交換を行った。各委員会の間でも、改善点について話し合いの場がもたれた。 [2024 年度 FD 活動] ・卒業生及び新入生のアンケート 自己点検・内部質保証委員会が実施する学修成果アンケートの回答率を高め、データの信頼性・妥当性を向上させる。また、本学部の特長的な学修成果を把握するために、学部独自のアンケート（語学系資格取得状況）を継続して実施する。これらのアンケート結果を教授会で共有し、学修成果の把握や意見交換の材料とする。 ・教学活動に関するワーキンググループの開催 22 年度より実施している教学活動に関するワーキンググループを 24 年度も引き続き開催する。各グループにおいて課題に対する具体的な対策案についても検討する。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけての準備 カリキュラム・マップの作成およびナンバリングを完成させる。 ・現代中国学会との連携 現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。 ・現地主義教育の成果検証と新展開の探求 学長裁量経費「現地主義教育の成果検証と新展開の探求」が採択されたことを受け、「現地プログラム」「現地研究調査」「現地インターンシップ」等の現地主義教育（オンラインを活用した教育を含む）について、その教育効果を検証し、新カリキュラムのもとでより効果的・効率的な実施形態を案出する。

学部等名	FD 活動
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	[2023 年度 FD 活動総括] ＜英語学科＞ ・22 年度に入試選抜方法を再検討して変更を決定し、23 年度には英語学科特別入試の問題形式を大幅に変更し、志願者増につながった。 ・入学時に行うアンケート調査の結果と CASEC の点数を考慮してクラス編成を行い、授業の運営方法について意見交換を行った。 ・一年生入門ゼミでは、キャリア支援、海外留学、図書館利用方法に関するガイダンスを各部署と調整して、ゼミ合同あるいは統一した内容で実施した。 ・一年次に加えて、二年次秋学期末にも TOEIC を無料で受験できる体制を整え、学生が自分の英語技能の上達を客観的にとらえられるようにするとともに、学科全体の英語教育の成果を測る参考資料とした。またそのスコアを 3 年次習熟度別クラス分けの資料として活用した。 ・英会話・英作文の授業にコーディネーターを引き続き配置し、積上げ式の学習を可能にした。 ・入学前教育の在り方を見直し、従来の 3 月末の英会話レッスンから、英語の文章を読んで英語で感想文を書く課題型（1 月末締め切り）に変更した。 ・大学の学生相談室カウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てた。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をした。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、学科のカリキュラムの見直しを行った。 ＜国際教養学科＞ ・注意を要する学生がいた場合、その都度、学科会議において情報共有をし、学生の指導のあり方について意見交換を行った。 ・学科会議での学科教育に関する意見交換・情報共有を継続し、連携して逐次課題・問題に迅速に対処できる体制を維持するよう努めた。 ・学習状況アンケートの結果をふまえ、今後の学科の在り方等についての意見交換を行った。 ・導入教育のさらなる拡充について、「入門ゼミ」の将来的な在り方を含め、担当者間で意見交換を行った。特に、2021 年度より「入門ゼミ」は統一シラバスで行っているため、内容、活動方法について担当者間で密に情報交換を行った。さらに、入学前教育として実施したブックレビュー、各教科の紹介ビデオの視聴を行い、よりよい活用の仕方について検討を重ねていった。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、学科のカリキュラムの見直しを行った。特に学科の英語教育の積み重ねについて、担当者間での検討を進めた。 ・留学ガイダンス、後援会、オープンキャンパス、K-con などの学生が日本語や英語でプレゼンテーションをする機会を増やし、国際交流や学習の動機付けを行った。 [2024 年度 FD 活動] ＜英語学科＞ ・入学時に行うアンケート調査と CASEC の点数を考慮して 1 年生の習熟度別クラス編成を行い、授業の運営方法について意見交換をする。 ・特に 1 年生の入門ゼミでは、細やかに学生の状況を把握し、学生生活に必要なキャリア支援、海外留学、図書館利用方法などのガイダンスを積極的に取り入れる。また、できる限り合同、あるいは統一した内容のガイダンスを企画・実施できるようにする。 ・入試課と教務課からのデータを利用して、現在の入試状況や高校生の動向を把握し、必要な対応方法を検討し実施する。 ・学生相談室委員やカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てる。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をする。 ・一年次に加えて、二年次秋学期末にも TOEIC の受験を義務化し、学生が自分の英語技能の上達を客観的にとらえられるようにするとともに、学科全体の英語の教育成果を測る参考資料とする。またそのスコアを 3 年次習熟度別クラス分けの資料として活用する。

	・英会話・英作文の授業にコーディネーターを引き続き配置し、非常勤講師との連絡を密にし、積上げ式の学習を可能する。 ・2025 年のカリキュラム改編にあたり、新しい科目の実施に向けて担当者間で検討を進める。 ・入学前教育の課題として提出された英文エッセイを入門ゼミ担当教員が閲覧し、学生の基礎学力の参考資料として活用する。 ・留学ガイダンス、後援会、オープンキャンパス、K-con などの学生が日本語や英語でプレゼンテーションをする機会を増やし、国際交流や学習の動機付けを行う。 ＜国際教養学科＞ ・学科会議での学科教育に関する意見交換・情報共有を継続し、連携して逐次課題・問題に迅速に対処できる体制を維持する。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、学科のカリキュラムの見直しを行う。特に学科の英語教育の積み重ねについて、担当者間での検討を進める。 ・「入門ゼミ」で 2025 年度から導入を予定している電子教材の準備作業を進める。また、入学前教育として実施したブックレビュー、および各教科の紹介ビデオの視聴を継続し、よりよい活用方法について検討を重ねていく。 ・昨年度同様に、在学生対象の学習状況アンケートを実施し、教育の成果や課題について問題共有を図っていく。 ・留学ガイダンス、後援会、オープンキャンパス、K-con などの学生が日本語や英語でプレゼンテーションをする機会を増やし、国際交流や学習の動機付けを継続して行う。

学部等名	FD 活動
文学部	[2023 年度 FD 活動総括] 1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」（FM 豊橋）の収録・放送 文学部の教員が自身の研究や教育に関する内容が収録・放送された。 今年度は「ミニ講義」、「自著を語る」など、自身が行う研究や教育に関する内容を中心に収録放送された。また「文学部における実習という科目」という特集を組み、一般市民に向け文学部における実験・調査・表現・制作等多彩な実習の教育について紹介した。放送は 2023 年 11 月から 2024 年 2 月までの全 17 回にわたって行われ、その後、愛知大学公式 HP および文学部公式 HP を通して公開された。 2. 人文社会学科と現代に関する研究会の開催 以下のように研究会を開催した。 2023 年度 第 1 回（Zoom 併用） 日時：2023 年 9 月 28 日（木）16：30～18：00 報告者：平高史也教授（日本語日本文学科） コメンテイター：鈴木康志教授（人文社会学科） タイトル：「ドイツ語と日本語を往還して - 私の研究 - 」 参加者：23 名 2023 年度 第 2 回（Zoom 併用） 日時：2024 年 2 月 28 日（水）　16：00～17：30 テーマ：障害学生支援に関する懇話会 話題提供者：土屋葉教授（人文社会学科） 参加者：27 名 3. 各学科・コースにおける取り組み ＜人文社会学科＞ (1) 学科としての基礎演習を行い、主に 1 年生向けの導入教育の充実を図っているが、カリキュラムの一層の充実に向けて検討を開始した。 (2) 社会学コースでは、注意を要する学生について、コース会議等において当該学生の情報を共有し、きめ細やかな指導を行うと共に授業・演習・実習の運営、引き継ぎが円滑に進むよう努めた。 ＜心理学科＞ (1) 毎週、学科における運営会議を実施し、授業の改善点や学生の学習状況に関して意見を交換し、問題点の改善を図るべく情報の共有や議論を行っている。 (2)「心理学科公開講演会」という学科主催の公開講演会を実施し、教員相互に各専門分野における研究の潮流や新しい研究成果について議論する機会を設けている。これにより各教員の専門分野を横断した知識の共有をはかり、各教員の研究力向上に努めている。2023 年度は豊橋技術科学大学から講師をお呼びして、音声認知の研究をテーマに議論を実施した。 ＜心理学科および人文社会学科社会学コース＞ 学位授与方針（DP（ディプロマポリシー）に基づいた学修成果アンケートの質問項目を検討し、今年度より独立項目として設けた。 [2024 年度 FD 活動] 1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」（FM 豊橋）の収録・放送 2. 教育に関する文学部教員による懇談会等の実施 3. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 4. その他、FD 活動の上で必要なことが生じれば、随時対応する。

学部等名	FD 活動
地域政策学部	〔2023 年度総括〕 2023 年度の地域政策学部の学部 FD 活動は、(1) 本学部の特色を踏まえた教育の実施、および教育成果の振り返り、(2) 教学や学生生活にかかる取り組みとの連携、の 2 点について実施した。 ＜活動内容＞ ＊活動内容の詳細については別紙「FD 活動報告書」を参照 (1) について、以下の活動を行った。 ・入学前オリエンテーションの実施 ・初年次教育の現状や在り方に関する教員間での議論 ・学生地域貢献事業企画発表会の開催および地域貢献事業に関する教員間での議論 ・「地域貢献論特殊講義」の開講 (2) について、以下の活動を行った。 ・「学習法」における図書館ガイダンスの実施 ・「学習法」におけるキャリアプランに関するガイダンスの実施 ・教授会に学生相談室員をお招きしての意見交換 〔2024 年度 FD 活動〕 ＜年度目標＞ (1)昨年度と同様に、本学部の特色をふまえた教育、および、その教育方法や教育成果等を振り返り、課題を探る。 (2)昨年度と同様に、教学や学生生活を支える学内のさまざまな取組みを知り、連携する。 ＜活動方法＞ (1)について ①大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育の実施、初年次教育の現状や在り方に関する教員間での議論を行い、改善を図る。 ②地域貢献活動の教育的意義についての意見交換を行う。 ③アクティブラーニングや PBL の取組み成果や課題について教員間の意見・情報交換を行う。 ④キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。 ⑤学生地域貢献団体やその活動に参加を希望する学生に対し、「地域貢献論特殊講義」を通じて、地域の実情を踏まえながら関係者との活動を行える学習機会を提供する（春学期水曜 5 限、15 回授業)。 (2)について 教職課程センター、学習・教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いての意見交換や、初年次教育の授業時間内において担当者各位からの説明および学生との意見交換との機会を設ける。

学部等名	FD 活動
短期大学部	［2023 年度 FD 活動総括］ ・初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージセンター）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学を実施し、実施日時・参加者名・活動内容等を記録して事務局に報告した。 ・学生による授業評価アンケートは、履修者数が少ない科目を例外として、原則的に短期大学部の全科目について WEB システムを使って実施した。春学期は実施 35 科目で設問⑴～⑺の回答平均 3.98、秋学期は実施科 37 科目で回答平均 4.26 となり、特に秋学期は全学的に見ても高い数値となった。 ・カリキュラム改革のために、現状の分析と改善の方法を教授会で複数回検討し、2025 年度カリキュラムを策定した。 ・教授会（7 月 20 日）で、ハラスメントやアンガーマネジメントに関する図書を各自 1 冊読むこととしたが、共有まではできなかった。 ・豊橋学生相談室の担当者を教授会（2 月 14 日）に招いて、統計データに基づき学生の悩み・相談の現状やその対応について報告を聞き、意見交換を行った。 ・教授会の場において、ゼミの教育活動事例報告は実施できなかった。 ［2024 年度 FD 活動］ ・引き続き初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージセンター）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学などを実施し、実施日時・参加者名・活動内容等を記録して事務局に報告する。 ・学生による授業評価アンケートは、履修者数が少ない科目を例外として、春学期・秋学期とも原則的に短期大学部の全科目について実施する。 ・教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、豊橋学生相談室の担当者を教授会に招いて、学生の悩み・相談の現状やその対応について意見交換する。 ・2025 年度カリキュラムを円滑に実施するための諸課題を教授会にて協議し、新カリキュラムについて情報共有に努める。